

2015年3月期第3四半期決算 決算説明会 Q&A (要旨)

【2015年3月期第3四半期決算の業績について】

Q：第3四半期の営業利益率は14.6%（前年同期比1.9ポイント増）と高い水準であるが、どのような要因によるのか？

A：好調な事業環境を受けて、稼働率が高まりプロジェクトの採算性が向上している。また、共同利用型サービスが順調に推移していることもあり、営業利益率は高水準となった。コスト削減にも常に取り組んでいる。

Q：第3四半期にIT基盤サービスセグメントで発生した不採算案件は、どのような案件か？また、今後の見通しはどうか？

A：大型ではないものの複数の案件で不採算が発生した。これまでに追加コストを計上している案件の分も若干含まれているが、当該案件の主要部分は完了しつつあり、追加の不採算が発生しないように慎重に監視していく。

Q：このまま順調に受注を積み上げた場合、人的リソースに不足感がでてくるのではないか？

A：稼働率は既に高い状況にある。社員の生産性向上に加えて、強固な協力関係にある国内パートナー・海外オフショアパートナーの活用が重要となる。

Q：東洋ビジネスエンジニアリングへの出資の目的は？

A：ERP事業を拡大させるために、ERPの経験と実績のある同社との関係を強化した。

【2015年3月期通期業績予想の見直しについて】

Q：第4四半期に見込まれる事業資産の効率化施策にともなう特別損失の発生は、来期以降の業績にどのような影響を与えるのか？

A：来期以降のコスト低減につながる見込みである。

【来期の業績予想について】

Q：来期も13%台の営業利益率を目指すのか？

A：来期の事業計画については、現在検討中である。先行投資も含めた健全な成長により、13%以上の営業利益率を目指していきたいと考えているが、まだ決定していない。

以上

・本資料は、2015年3月期第3四半期の業績および今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではなく、また何らかの保証・約束をするものではありません。本資料に掲載されております事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、また今後、予告無しに変更されることがあります。
・本資料のいかなる部分も一切の権利は野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。